お茶の水地理学会見学会 '93
——金町浄水場・柴又帝釈天——

茂　野　睦　美

平成5年3月26日，毎年恒例となっているお茶の水地理学会の春の見学会が行われた。場所は葛飾区の柴又駅から歩いて10分ほどの，東京都水道局の金町浄水場である。

柴又という地名からは，有名な柴又帝釈天や，歌にも歌われている矢切の渡し，あるいは映画「男はつらいよ」の寅さんのセリフ，だんご屋・河原や土手の風景などを想像されるかと思う。昔ながらの庶民的な町並みというイメージがそこにはある。柴又の地名はすでに1,200年前立派に存在していたことが，正念院文書から知られている（当時は島俣といった）。ここは東京都内でもかなり早くから開けた土地であり，しかも確実な文献も残っているという，関東でも珍しい土地である。そんな町の近く，江戸川の辺に，金町浄水場は広大な敷地をもって存在する。

東京都の水道普及率は100％で給水面積は1,154㎢，給水人口は1千万人を越す。この需要の大きさを賄うため，都水道局は水源として利根川水系・多摩川水系・相模川水系・ごく一部で地下水を利用し，11の浄水場を設置している。ここ金町浄水場は利根川水系の浄水場の一つであり，足立区・葛飾区・江戸川区から千代田区の一部まで，人口の集中した都内の中東部を中心に給水している。給水人口は約250万人と都の人口の1/4を占めることになり，施設も大規模である。

このように多くの人々へ給水を行っている金町浄水場は，最近，「かび臭」除去のための画期的な設備をいちはやく導入したことで，全国から注目を集めているのである。

職員の方の説明によると，昭和47年頃から水道水のかび臭さに対する苦情がよせられはじめたそうである。多いときで年間1,000件を上回り，その対策として昭和59年以降は粉末活性炭を使用してきた。そして更に安定的，効果的に「かび臭」を除去するため，「高度浄水処理方式」を導入し，平成4年6月25日から運転を開始している。今では1件の苦情もよせられなくなったとのことである。

高度浄水処理方式とは，オゾン処理と活性炭処理を組合わせたものであり，オゾンの酸化力でかび臭等を分解するとともに，活性炭による吸着作用と微生物の生物酸化作用とにより，かび臭等を除去する方法である。私達は実際に，オゾン接触池の池底部に設置された散気管から噴出しているオゾンの様子や，オゾン処理後の水をろ過するための活性炭層等を見学することができた。

この新方式の導入による成果は大変評価されているようである。しかしながら，水道水に関するすべての問題がこれで解決されるわけではない。金町浄水場の水源は江戸川であり，上流域の住宅地増加に伴って生活排水も増えている。また，江戸川の表流水は，利根川・渡良瀬川および，潅漑期の5月から9月の間は中川から江戸川の不足水量の補給を受けるなど上流水域の影響を受け，水質の変動が年間を通じて著しい。より安全でおいしい水を飲むためには，原水の水質そのものが改善されるにこしたことはないのである。川の汚れの最大の原因が生活排水であることを我々が認識し，毎日の生活の中で家庭から汚れを出さない工夫をしてゆかねばならない。見学を終えてそう強く思った。

浄水場を後にし，私達は柴又帝釈天へと向かった。現在の拝殿は大正4年に完成した総けやき造りで，仏教説話をモチーフとした宮彫りがほどこされている。

ゆっくりと参拝，見学したあと，純和風庭園を眺めながら一服し，解散した。中には，矢切の渡しへ行き，強い風の吹くなかで江戸川を往復してくるという元気な方もいらしたようだった。また，帝釈天参道に並ぶ草だんごやおせんべいの店に立ち寄ったりと，銘々楽しんで過ごしたようである。この日は，年に一度の年齢を越えた交流のよい機会になったと思う。参加者は16人であった。

（3月26日　案内者：栗原（16回生）・東（27回生）会員）